

DX推進力を高める「オンラインDXラーニング」 Aidemy Businessのご紹介



会社概要

会社名	株式会社アイデミー（証券コード 5577）
代表者	代表取締役 執行役員 社長 石川 聡彦（Akihiko Ishikawa）
会社理念	先端技術を、経済実装する。
所在地	〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー 6F
技術アドバイザー	國吉 康夫（東京大学大学院情報理工学系研究科 教授） 木下 裕介（東京大学大学院工学系研究科 准教授）
ワークショップ アドバイザー	川越 至桜（東京大学生産技術研究所 准教授）
主要株主	経営陣, 東京大学エッジキャピタルパートナーズ(UTEC), Skyland Ventures, 大和企業投資, ダイキン工業, テクノプロ, 古河電気工業, 日本ゼオン, 東京大学協創プラットフォーム開 発(東大IPC), 個人投資家（2023/5/31時点）
資本金	8.0億円（2023/5/31時点、資本剰余金含む）
従業員数	119名（2023/5/31時点、アルバイト含む）

加盟団体

Keidanren
Policy & Action

一般社団法人
JSAI 人工知能学会
The Japanese Society for Artificial Intelligence

一般社団法人
日本ディープラーニング協会



GX League

Human
Capital
Management
人的資本経営コンソーシアム

導入企業（一例）

DAIKIN

Asahi**KASEI**

Nニチレイ

JR
JR東海

HONDA

mazda

FURUKAWA
ELECTRIC GROUP

AINISIN

NTT DATA

NS Solutions

住友商事

大和証券
Daiwa Securities

TOPPAN

YKK
Little Parts. Big Difference. >>>

三井金属

三井化学



Mission

先端技術を、 経済実装する。

AIをはじめとした新たなソフトウェア技術を、
いち早くビジネスの現場にインストールし、
次世代の産業創出を加速させる。
それが、私たちアイデミーの使命です。

Value

Client First すべてはお客様のために

お客様に最高の価値を提供し、期待を超えた感動を追求しよう。

Top Speed 爆速、その先の成長

スピード感ある判断・行動を通じて、高い成長性を実現しよう。

Scientific Mindset 科学者たれ

事実やデータに対して素直に向き合いながら、常に挑戦しよう。

One Aidemy 信頼と尊敬

ミッションを達成するために、全員の力を合わせよう。

導入企業

過去12ヶ月の顧客企業数

263社 (2022年11月末)

Aidemy Businessの導入実績※1

Fortune Global 500選出企業利用率**79%** (2023年5月末)

エンタープライズ顧客比率**95%以上** (2023年5月末)

取引中の企業事例※2

製造業等

自動車／輸送機器

- 本田技研工業株式会社
- マツダ株式会社
- 株式会社豊田自動織機
- 株式会社アイシン
- 日本精工株式会社
- 豊田鉄工株式会社
- ジャトコ株式会社
- ユニプレス株式会社
- 東芝エレベータ株式会社

電気機器

- キヤノン株式会社
- 京セラ株式会社
- コニカミノルタ株式会社
- IDEC株式会社

工作機械/産業機械

- ダイキン工業株式会社
- 日鉄テックスエンジニアリング株式会社

その他製造

- 大日本印刷株式会社
- 凸版印刷株式会社
- 栗田工業株式会社
- 東洋製罐グループホールディングス株式会社
- YKK株式会社
- 日本ガイシ株式会社

建設/プラント

- 水ing株式会社
- 鹿島建設株式会社

半導体/医療機器

- キオクシア株式会社
- シスメックス株式会社

非鉄金属

- 古河電気工業株式会社
- 株式会社プロテリアル
- 神鋼鋼線工業株式会社
- 住友電気工業株式会社
- 三井金属鉱業株式会社
- トピー工業株式会社

化学・製薬

化学

- 日本ゼオン株式会社
- 旭化成株式会社
- 三井化学株式会社
- 富士フイルム株式会社
- 日産化学株式会社
- 花王株式会社
- JSR株式会社
- 住友精化株式会社
- 株式会社クレハ
- 株式会社ダイセル
- 東洋インキSCホールディングス株式会社

製薬

- エーザイ株式会社
- 大塚ホールディングス株式会社

情報通信

情報通信／システム開発

- SCSK株式会社
- SOMPOシステムズ株式会社
- オムロン ソフトウェア株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- スミセイ情報システム株式会社
- 株式会社富士通エフサス

人材

人材

- 株式会社アルプス技研
- 株式会社テクノプロ

金融・コンサル

金融/保険/証券/不動産

- 株式会社大和証券グループ本社

コンサルティング

- 復建調査設計株式会社

商社/小売

商社/卸売/小売

- 住友商事株式会社
- キヤノンマーケティングジャパン株式会社

食料品

食料品

- 味の素株式会社
- 株式会社ニチレイ

※1 エンタープライズは従業員数が1,000名以上の企業及びその子会社と定義して、Aidemy Business導入企業の内、エンタープライズの比率を算出

※2 2023年5月末時点の取引先企業を記載。

提供サービス

全社まるごとDX推進パートナーとして、**貴社のデジタル変革を一気通貫で伴走支援**

リテラシーの底上げ

座学から実務への架け橋

開発・運用伴走

DSAT

デジタルスキルアセスメントテスト

 **Aidemy PRACTICE**

ワークショップ・ハンズオン研修

 **modeloy**

プロジェクト伴走支援

危機感醸成セミナー

手を動かすアウトプット実施や、
講師からフィードバックを得ることで

座学で学んだ“知識”を
実務で使える“知恵”へと昇華

DX内製化実現に向けた
プロジェクトの
伴走型支援サービス

 **Aidemy BUSINESS**

オンラインDXラーニング

Aidemy Business（オンラインDXラーニング）

- ・ サービス概要
- ・ 導入事例紹介
- ・ Appdendix

Aidemy Businessサービス概要

DX推進力を高める「オンラインDXラーニング」



ユーザー数20万人超

日本最大級
DX研修プラットフォーム

3つの
No.1

1 経営者から選ばれる
No.1 DX人材育成サービス

2 社会人から選ばれる
No.1 DX人材育成サービス

3 法人向けオンライン
DX人材育成サービス受講者数

【経営者から選ばれる、No.1 DX人材育成サービス / 社会人から選ばれる、No.1 AI学習サービスについて】
日本マーケティングリサーチ機構調べ
調査概要：2021年5月期 ブランドイメージ調査

【法人向けオンラインDX人材育成サービス受講者数No.1について】
調査元：ESP総研
調査対象：JDLA E資格認定講座所持企業 18社の提供する有料法人受講者数（累計）
調査期間：2021年6月3日～2021年7月26日

DX化されている状態

DX化されている状態

組織の遂行能力が高い

デジタルを強みとして活用している

結果として

他社が模倣できない
自社独自の強みを持つ

変わりゆくビジネスの
競争環境に適応できる

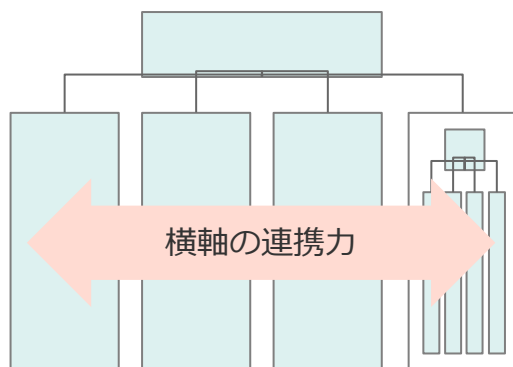
DX化されていないと

市場の変化に適応できず
競合企業に遅れを取る

ノーマークだった
デジタル力のある企業に
市場シェアを取られる

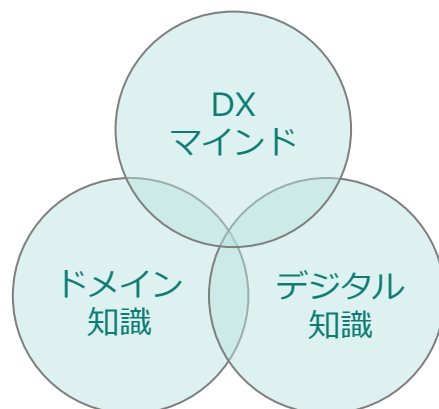
組織体制

縦割りで分業化された組織の中に
横軸の連携力があり、
組織として全体最適化が
実現できる体制がある。



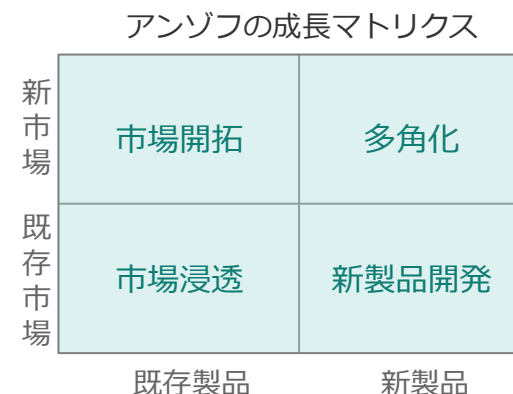
全社員のリテラシー

ビジネス競争環境の変化スピード
を理解し、ドメイン・デジタル
知識の両方を持ち、
ビジネスに活用している。



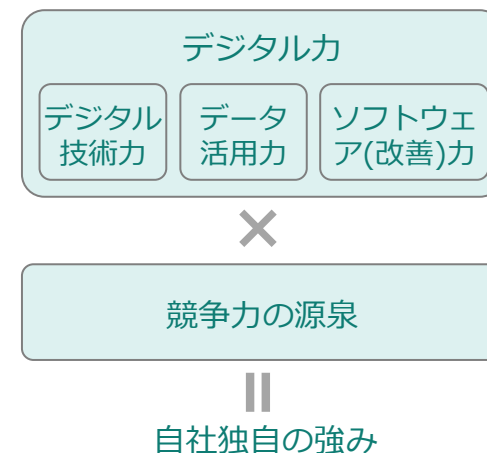
事業戦略

自社の競争力の源泉を把握し、
既存・新規事業はそれぞれの
市場変化に合わせた戦略を持つ。



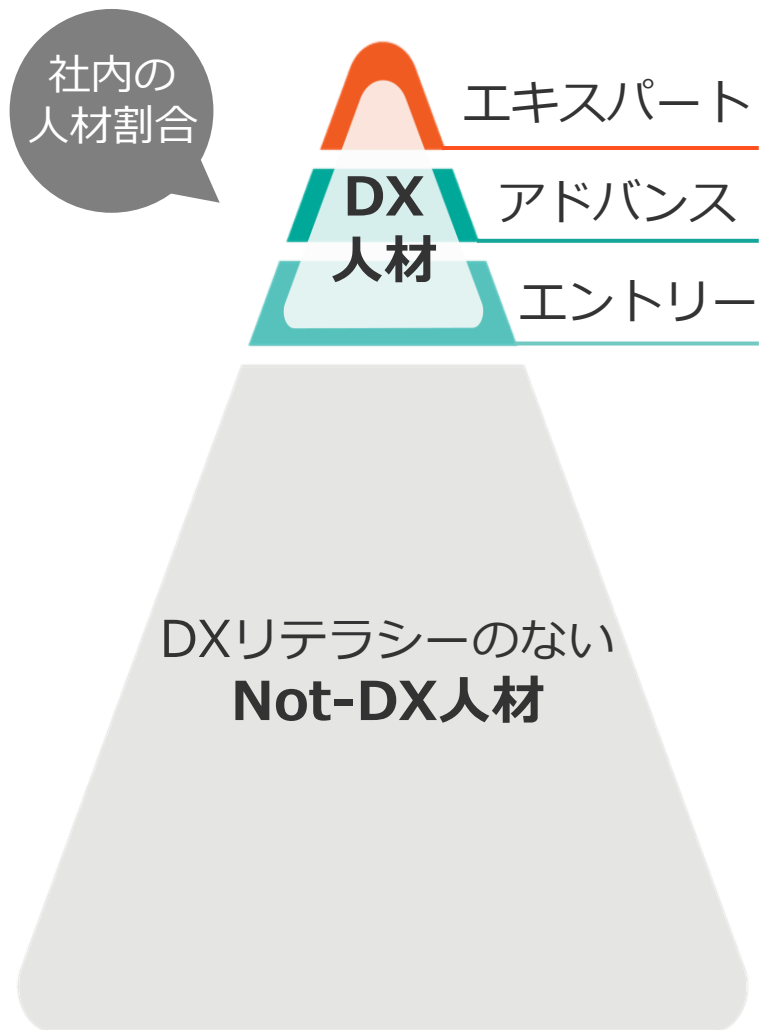
デジタル力

自社の競争力のコアになる部分
は自社で内製する。
内製できる人材・ノウハウが
社内にある。

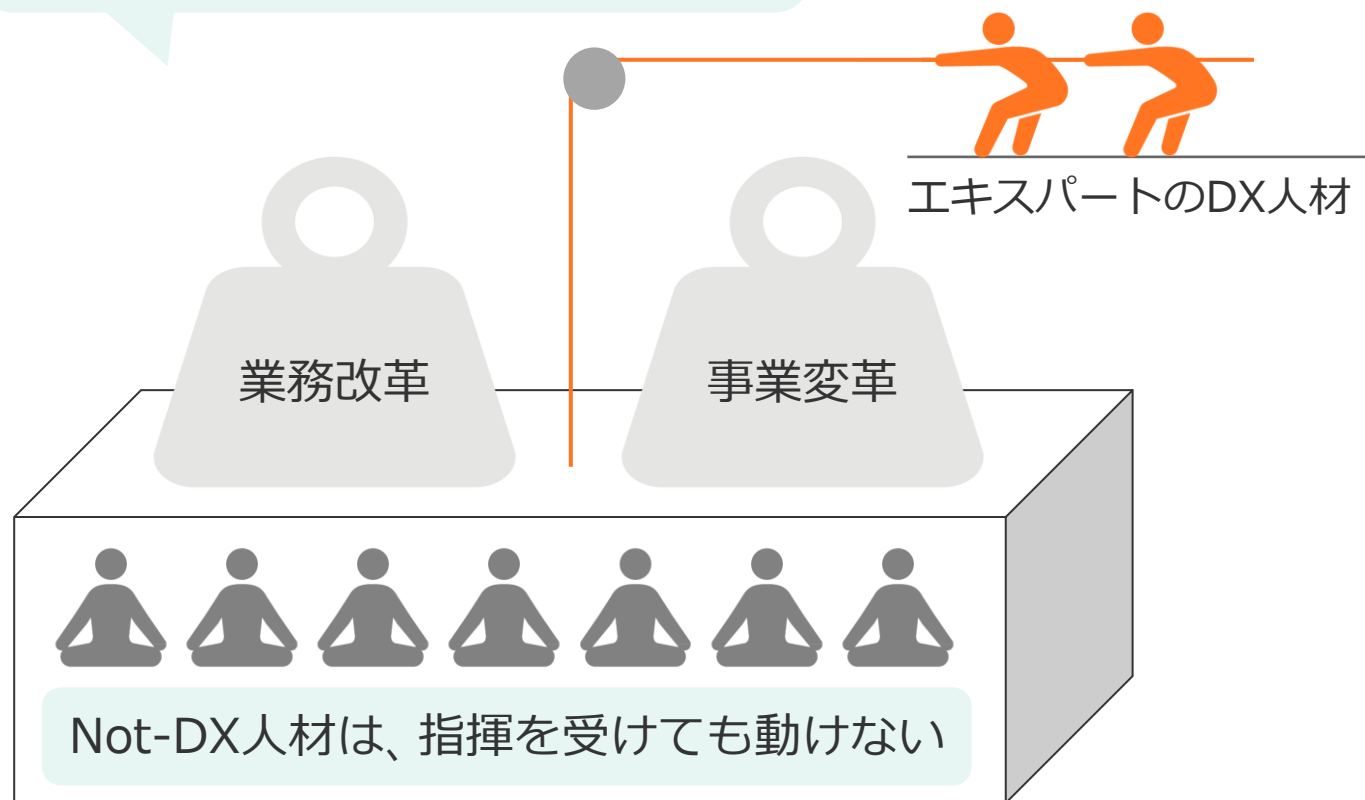


全社的なDX推進における障壁

DX人材の割合が少ないため、DX推進が難航



エキスパート人材の採用/育成
だけではDX化が進まない



Aidemy Business導入後のイメージ

「高いDX推進力を持つ組織」へと変化

社内の
人材割合

エキスパート

アドバンス

エントリー

Not-DX人材

各人材のレベル定義

- ・データ分析からインサイトを創出できる
- ・デジタルサービスを企画・実装できる
- ・実践的なAIプログラミングできる

エキスパートの協力を得て

- ・データ分析からインサイトを創出できる
- ・デジタルサービスの企画・実装できる
- ・統計分析・AIプログラミングできる

- ・DXの必要性・背景を理解している
- ・デジタル技術の特性・活用例を理解している
- ・AIの特性・活用例を理解している

ビジネス現場で働く人材

自社業務の専門知識

x

デジタル素養・知識

指揮の下、動ける人材が増えて
DX推進が加速する



DX人材



エキスパート

エキスパート人材と共に協働できる
エントリーレベル以上のDX人材を増やす

Aidemy Businessの特徴 3 つ

DX推進力を高める「オンラインDXラーニング」



01.コンテンツ

DX/AIに特化した
コンテンツが学び放題



02.サポート

専任担当による
手厚いサポート体制



03.システム

継続学習・知識定着を
支援するシステム

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

DX推進に必要な「共通言語・知識・スキル」の習得

コンテンツの数

200

コース以上

+

毎月新しいコースが追加

コンテンツの網羅性

対象	ビジネス職	ITエンジニア職	
	✕		
レベル	入門	基礎	実践
	✕		
カテゴリ	IT	DX	AI
	AIビジネス、事業企画	プログラミング (Python)	データの操作
	機械学習	開発手法	その他

コンテンツの質

アイデミーのコンテンツ部が一貫した制作・品質管理を実施

テーマ

様々なニーズや社会的課題に沿って、自社で企画

講師

社内社外から、テーマに合わせて選抜されたプロフェッショナル

制作担当

コンテンツ部には教科書・学習参考書などの編集経験を持つメンバーが在籍

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

人気コースの一例

#	コース名	時間	難易度
1	10分でキャッチアップ_DXとは	0.5	★
2	10分でキャッチアップ_AIにできること	0.5	★
3	ChatGPT入門	1	★
4	定型業務を自動化しよう！概論編 RPA入門	1	★
5	事例で学ぶ！DX事業立案	3.5	★
6	DX実践のためのローコード開発 Claris FileMaker 基礎編	2	★
7	ビジネスパーソンのためのDX入門（サマリー版）	1.5	★
8	DXリテラシー：マインド・スタンス ～ケーススタディで学ぶ、DXマインドとは？～	1	★
9	DXリテラシー：What (DXで活用されるデータ・技術) データ	1	★
10	DXリテラシー：How（データ・技術の活用）留意点	1	★
11	プログラミング超入門	2	★
12	投資対効果を最大化するAI導入	3	★
13	今日から実践！ロジカルシンキング入門	1	★
14	G検定対策講座	7	★
15	クラウド入門	1	★

#	コース名	時間	難易度
16	これだけはおさえないExcel基礎	1	★
17	情報セキュリティよもやま話 Vol.1	0.5	★
18	機械学習につながるビジネス数学	0.5	★
19	Power BI基礎編 データ可視化と活用概論	1	★
20	はじめてのPython	4	★
21	SQL基礎	1.5	★
22	ITパスポート対策	15	★★
23	「データサイエンティスト検定リテラシーレベル」対策	7.5	★★
24	Python3エンジニア認定データ分析試験対策①	6.5	★★
25	統計検定3・4級対策	20	★★
26	マテリアルズインフォマティクス概論	3	★★★
27	画像データによる異常検知：入門編	3	★★★
28	自然言語処理基礎	3.5	★★★
29	時系列解析 I（統計学的モデル）	4.5	★★★
30	【新】タイタニック（kaggleのコンペ）	4	★★★★

DX/AIに特化したコンテンツが学び放題

カリキュラムの一例

DX基礎

DXの定義, 求められる背景,
DX実現に不可欠なデジタル技術など
DXリテラシーを学ぶ

5.5時間

#	コース名	時間(h)
1	ビジネスパーソンのためのDX入門 (ディテール版)	3
2	DX時代のデジタル技術と開発手法	1.5
3	DXを加速させるための たった1つのポイント	1
カリキュラム合計時間(h)		5.5

PM・プランナー

DXプロジェクトや、
AIが絡むプロジェクトの
立案・管理を学ぶ

14.5時間

#	コース名	時間(h)
1	マスクド・アナライズの 「AIビジネス活用を考える」	1
2	オープンイノベーション実践のための AIリテラシー	1.5
3	AIプロジェクトマネジメント	1.5
4	投資対効果を最大化するAI導入	3
5	事例で学ぶ！DX事業立案	3.5
6	AIプロジェクト推進力向上	4
カリキュラム合計時間(h)		14.5

Python基礎

機械学習や
WEBアプリケーションなどで
使用されるプログラミング言語
「Python」を学ぶ

21.5時間

#	コース名	時間(h)
1	プログラミング超入門	2
2	初学者向けの オブジェクト指向プログラミング	2
3	はじめてのPython	4
4	Python基礎	4
5	ライブラリ「NumPy」基礎（数値計算）	3
6	ライブラリ「Matplotlib」基礎（可視化）	4
7	ライブラリ「Pandas」基礎（表計算）	2.5
カリキュラム合計時間(h)		21.5

Python実践(画像認識)

画像データによる異常検知など、
ビジネス現場で応用できる
画像認識スキルを学ぶ

16時間

#	コース名	時間(h)
1	CNNを用いた画像認識	3
2	男女識別（深層学習発展）	3
3	手書き数字認識（kaggleのコンペ）	4
4	画像データによる異常検知：入門編	3
5	画像データによる異常検知：実践編	3
カリキュラム合計時間(h)		16

専任担当による手厚いサポート体制

様々なお客様と向き合ってきた専任担当

担当の特徴



Aidemy Businessご導入背景や、
貴社のビジネス・DXビジョンを
理解した上でご支援



クライアント様の人材育成のお悩み・課題に
日々向き合い、培ってきた肌感覚を持つ
(経営層から現場チームまで)

トリプルサポート体制



アカウントエグゼクティブ

DX推進の全体をサポート
主に、ゴール設定・ロードマップ作成など、
育成計画のブレインを担当



カスタマーサクセス

DX人材育成をサポート
効果的な受講促進や、
育成課題の解決に向けた提案を担当



カスタマーサポート

受講ユーザーをサポート
日々のお困りごとや質問に対して
迅速な解決を支援する担当

専任担当による手厚いサポート体制

サポート内容の一例

定例MTGを含む
定期的なコミュニケーションにより下記をサポート



人材育成の
ゴール設定
(人材像/スキルの定義)



役職別
カリキュラム
の提案



育成の
中間観測
(受講データ分析/
習熟度テスト)



受講状況/課題
に対する施策
の提案



ライセンス
運用方法の提案
(公募形式や学習期間など)



システムの
利用方法の支援



ユーザー会へご招待



クローズドな空間で、WEB上にはないリアルなDX人材育成担当者の体験談が聞ける

下記テーマについて、ユーザー企業様にご登壇
テーマ例：
人材育成・Aidemy Businessご活用方法や実務への活かし方



ユーザー企業の担当者様同士で、
DXに関して情報交換ができる

ユーザー会の様子



継続学習・知識定着を支援するシステム

受講者向け機能

マルチデバイス対応の
動画視聴環境構築不要の
プログラミング演習

動画コースは複数チャプターから構成され、隙間時間でも学習がしやすい仕組み。



プログラミング学習で挫折しやすいポイントである環境構築が不要。プログラミング初学者でも学びやすい仕組み。

継続学習・知識定着を支援するシステム

受講者向け機能

不明点はその場で質問(質問箱機能)

質問する
(2営業日以内返信)

受講画面の右上にあるボタン



質問箱

学習中に困ったこと、何でもご質問ください。
2営業日以内にお答えいたします。

ご質問内容

こちらにご入力ください

返信用メールアドレス

sample@aidemy.co.jp

送信する



24時間いつでも質問可能



質問回数の制限なし



2営業日以内に
チューターから回答が届く

継続学習・知識定着を支援するシステム

管理者向け機能

受講進捗管理
(CSVでダウンロード可)CSVデータから
分析できる内容

▼受講者ごとのカリキュラム進捗確認画面



CSV項目

分析からわかる内容

総学習時間

人材育成のKPIに利用可能な
受講者の学習時間がわかるカリキュラム内
のコース進捗率コースの学習途中で
離脱しているコースから、
苦手分野の傾向がわかる演習問題で
初回正解するまで
の不正解回数受講者の得意・不得意分野
の傾向がわかるカリキュラム外
のコース進捗率カリキュラム以外で
受講者が興味の
持っている分野がわかるカリキュラム・所属・タグ・ライセンス有無ごとに
該当する受講者のカリキュラム進捗一覧が確認可能

継続学習・知識定着を支援するシステム

テスト機能

受講者メリット | 知識定着のサポートになる

▼テスト受験画面

エンジニア (アセスメント) 残り時間 28:34

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

テストを終了する

問4

人工知能に関する説明文のなかで、正しいものを選んでください。

☐ 人工知能(AI)アルゴリズムには、If-Then形式のみで知識表現を行うものも含まれる。

☐ 機械学習(マシンラーニング)手法のなかの一部が深層学習(ディープラーニング)手法です。

☐ 機械学習は大量のデータからパターンを読み取り、問題を解決する手法です。

☐ 人工知能は画像、音声、マーケティングなどの様々な分野で活用されます。

☐ 上記の選択肢すべて

スキップ 回答する

☐ あとでもう一度チェックする

▼テスト結果確認

問1

DQNについて述べた分として誤ったものを選んでください。

☒ Q学習は行動価値関数を推定するアルゴリズムである。

☐ 行動価値関数はテーブルの形で表現される。

☐ Q関数のサイズは、状態や行動の数に関わらず一定ではない。

☐ DQNの論文では収束の保証がないQ学習の成功を証明した。

☐ 上記のどれも当てはまらない

深層強化学習発展 > DQN

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

✖ ○ ○ ✖ ✖ ○ ○ ✖ ○ ✖ ✖ ✖ ✖ ✖ ✖ ○ ○

出題の元となった
コースに遷移・復習可能

管理者メリット | 受講者の習熟度がわかる

▼テスト受験者管理画面

テスト受験者管理 [CSVダウンロード](#)

受験者を設定するテスト: **ビジネスサイド(アセスメント)** 受験期間 (設定): 2021/10/18~2023/02/09 合格ライン (設定): 70% 受験者を一括設定する: [テスト対象一括設定\(CSV\)](#)

カリキュラム: 全て 所属: 全て タグ: 全て 受講ライセンス: [すべて](#) [あり](#) [なし](#) お名前の一部を入力して絞り込みます

お名前	カリキュラム	所属	タグ	テスト対象 (全て選択)	得点	再テスト対象 (全て選択)	再テストの得点
山田	AI/ML教養・リテラシー	営業	第一期	☒	7/20 (2022/07/22)	☐	10/20 (2022/09/15)
田中	AI/ML教養・リテラシー	営業	第一期	☒	0/20 (2022/10/18)	☐	
伊藤	AI/MLディレクター	営業	第一期	☒			
仲村	AI/ML教養・リテラシー	営業	第一期	☐			



カリキュラムごとにテスト作成
(出題コース, 問題数, 合格正答率, 制限時間等が設定可)



テスト不合格の受講者が
再テストを受けられる機能あり

全社員対象のDXリテラシー研修を実施

キヤノン株式会社

全社的なDX教育に向けたAidemy Businessの活用 | ニーズに合わせたコンテンツの制作・提供

全社教育の背景



現場主体のDXによる生産性向上



現場社員が、現場でのデジタル技術活用の実現にむけて、社内外の関係者と適切なコミュニケーションができる状態を目指す

全社横断の基礎教育

全社員 約2万5千名を対象に
DXリテラシーを学ぶ研修を実施

(2023年度は 4,000名が本研修受講予定)

学習内容 (全社員共通)

経済産業省が提示する
「DXリテラシー標準」に準じたカリキュラム一人ひとりがDXに参画して、
成果を発揮するために必要なリテラシー

「DXリテラシー標準」の大項目

マインド・スタンス

新しい価値を生み出す
心構え・姿勢を理解

Why

外部環境の変化・
DXの重要性を理解

How

データ・デジタル技術
の事例・活用方法の理解

What

データ・デジタル技術
の理解

グループDX戦略推進に向けて、全社員を対象にしたデジタル人材育成研修を実施

株式会社ニチレイ



約400名



応用研修の
修了者から選出



約3,500名

2022～2023年度内

自社課題に対して デジタルを活用できる人材

現場のDX推進や
新規事業創出等を推進するリーダー

DX戦略

従業員一人ひとりがごく当たり前に
データ・テクノロジーを使いこなし、
地球と人々に新たな価値を提供し続けます。

デジタル化に向けて、アクションがとれる人材 | 応用研修

- データ分析やデジタルツール等を活用できる人材を育成
- (研修はアイデミーの実践研修も含めてご検討中)

デジタル化の必要性を理解している人材 | デジタル人材育成研修 Aidemy BUSINESS

- Aidemy Businessを活用し、デジタルリテラシーを持った人材を育成



カリキュラム内容

DXに関する
知識

デジタル技術の
知識/スキル

データ分析
スキル
(データサイエンス)

DXゴールに向けて、全社的なデジタル人材育成を実施 マツダ株式会社

アイデミーが“DX推進パートナー”として、Aidemy Business全社プランを提供し、組織のデジタル変革をご支援。

DXゴール

圧倒的短期間で
価値ある製品やサービスを
社会に提供可能へ！

全社教育の背景

著しく変化する
ビジネス環境・競合競争に対する戦略として、
組織のデジタル変革（デジタル人材育成）を決断

▼デジタル人材育成により、下記の組織力を強化

- グローバルでの環境規制などの経営環境の
変化に対する適応能力
- 自動車産業の新時代「CASE時代」に求められる
新しい価値創造力

直近3年のゴール

全社員を対象に、**デジタル人材へのリスキリング**を実施



全社人材を分類・個別カリキュラム提供

- 人材を3つに分類（役員・ビジネスプロモート・モノづくり）
- 階層・職種別カリキュラムを用意
- カリキュラムは、**基礎から発展的な内容を学べる**構成



カリキュラム内容

DXに関する
知識

デジタル技術の
知識/スキル

データ分析
スキル
(データサイエンス)

ビジネスに関する
知識/スキル

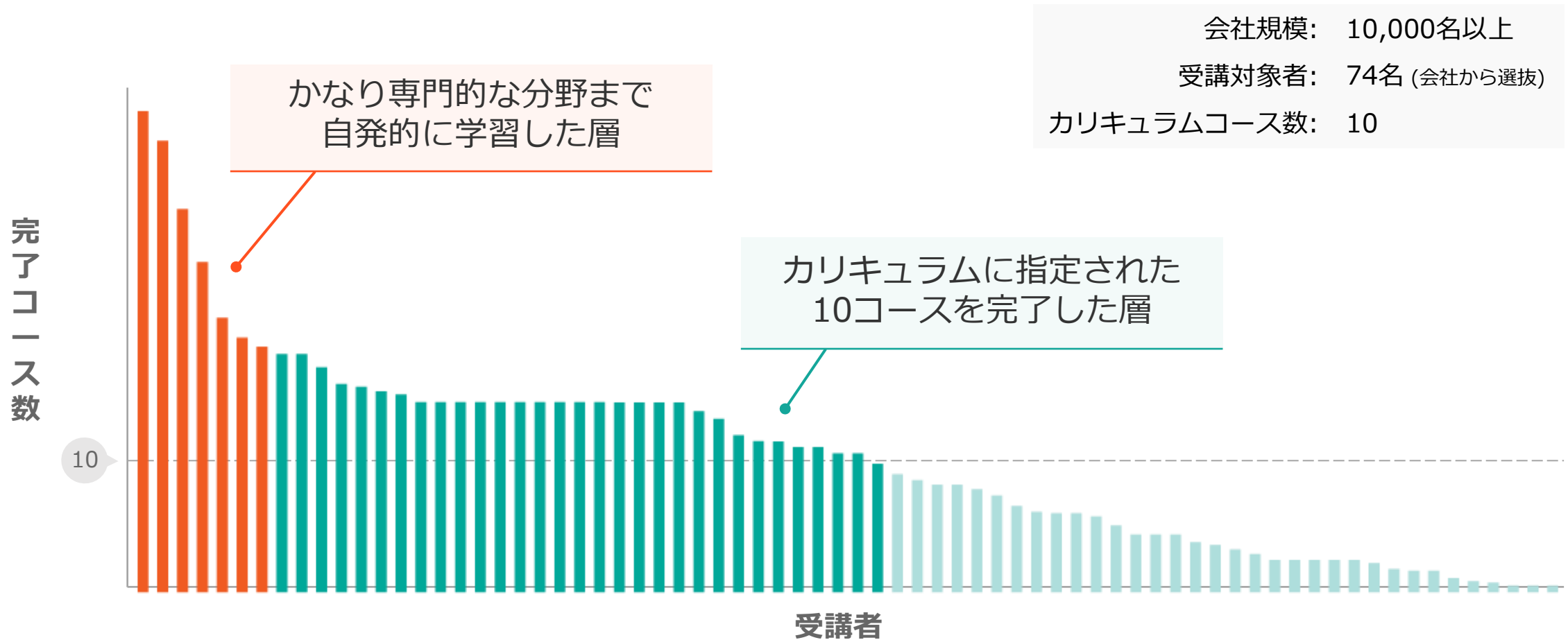


今後の実施予定

役員向け	Aidemy Businessでの研修内容拡充による業務への実装
ビジネスプロモート向け	業務改善ワークショップを活用した業務改善の実施
ものづくり向け	Modeloyを活用したDXプロジェクトの推進

DXリーダー人材が見つかる「人材発掘ツール」

導入企業様の受講状況グラフ



人材開発支援助成金

Aidemy Business等の導入は厚生労働省「人材開発支援助成金」の経費助成対象となり得ます。

※記載の内容は2023年2月8日現在の状況です。

パターン ①

人材開発支援助成金 > 事業展開等リスキリング支援コース

対象や特徴

2022年12月に公開された新たな補助コース /
デジタル・DX化 / グリーン化を推進するための
研修に対する助成

経費助成率

大企業：60% 中小企業：75%

1事業所が
1年度中に受けられる
経費助成の上限

1億円

パターン ②

人材開発支援助成金 > 人への投資促進コース > 定額制訓練

サブスクリプション型の研修サービスを利用
する事業主に対する助成

大企業：45% 中小企業：60%

※「生産性要件」を満たせば、それぞれ+15%の補助を受給可能

2,500万円

以上の2コースの共通する特徴

- 対象となる事業主や従業員に大きな制限はなく、適切に雇用保険料を納入し、労務管理を実施している事業主であれば基本的に受給可能となります。
- 受給条件は「各支給対象労働者の受講時間（標準学習時間）の合計時間数が、支給申請時において10時間以上」など、他助成金と比較しても非常に柔軟性が高いものになっています。

注意点など

- 支給のためには就業時間内に受講させ、かつ受講料を全額会社が負担することが前提となります。
- 訓練開始日（契約開始日）の1ヶ月前までに必要な様式・添付書類を提出が必要で、訓練終了日の翌日から起算して2か月以内に支給申請が必要で、支給申請後、労働局所定の審査が必要になります。また、助成金の制度は年度の途中でも変更となる場合があります。
- アイデミーでは顧客の申請等に必要書類のうち「対象訓練実施者欄」に署名する等のご支援を行いますが、**補助金の支給をお約束することができません。**最新の助成金の情報や詳細は、厚生労働省ホームページをご覧ください。社会保険労務士や管轄労働局までお問い合わせをお願いします。

その他サービスのご紹介

- DSAT(Digital Skill Assessment Test)
- Aidemy Practice (ワークショップ・ハンズオン研修)
- Modeloy (プロジェクト伴走支援)



DSAT (Digital Skill Assessment Test)



DSAT (Digital Skill Assessment Test)

DSATとは

アイデミー独自開発

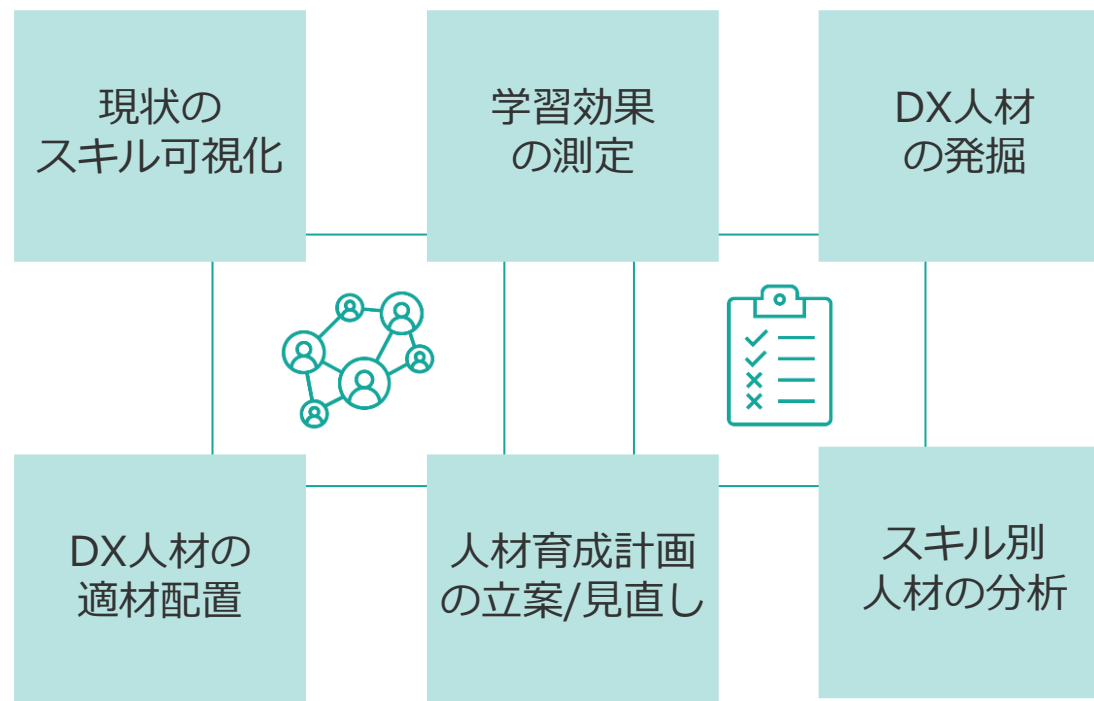
デジタルスキルを総合的に
評価できるアセスメントテスト

無償ライセンスユーザーも利用可能

テスト種類

レベル	テスト名	テスト概要
Standard	Standard (DX Basic)	デジタルリテラシーの知識の理解を問うテスト
Advanced	Engineering (Python & Web)	エンジニアリングに必要なスキル・知識の理解を問うテスト
	Business Planning	デジタルを活用したビジネス企画立案に必要な知識の理解を問うテスト
	Data Science	データサイエンティストに必要なスキル・知識の理解を問うテスト

DSATで実現できること



Aidemy Practice (ワークショップ・ハンズオン研修)

Aidemy PRACTICE 研修一覧

テーマ	
ステップ	
	業務改善 事業企画 機械学習 モデル開発 システム開発 生成AI
4 … 実務	1on1コンサルティング [別サービスにてご支援] Modeloy Support [別サービスにてご支援] プロジェクト伴走支援 Modeloy
3 … 実践	デジタル業務改善WS AI活用企画WS 問題解決WS UX企画WS DX事業立案WS Python実践研修 Webアプリ開発研修 Coming Soon
2 .. 基礎	RPA基礎研修, 応用研修 [Power BI]データ可視化研修 データ分析ハンズオン研修 ビジネスモデル変革WS Python 基礎研修 AI開発 ハンズオン 研修 業務要件定義WS ChatGPTを活用した エンジニアリングハンズオン
1 . 入門	プロフェッショナル講演 初歩から学ぶ ChatGPT活用 事例セミナー

研修コンサル支援の流れ



Modeloy（プロジェクト伴走支援）

- ・ サービス概要
- ・ ご支援内容・アプローチ
- ・ 事例紹介



DX内製化実現に向けたプロジェクトの伴走型支援サービスです。
アイデミーのプロフェッショナルが、貴社メンバーと共にプロジェクトを推進し、
社内にノウハウが蓄積する形での「AI開発を含む内製化支援」を行います。

貴社の現状課題を把握し、
DX企画・AI技術で解くべき課題を選定します。
ビジネスインパクトや投資対効果を試算した上で、
適用領域とPoCの評価指標を定義します。

課題選定

機械学習モデル・IoTを活用した
アプリケーション開発・運用を支援します。
また、アジャイル開発やスクラム手法といったモダンな開発
によるチーム体制・タスク設計の適応支援可能です。

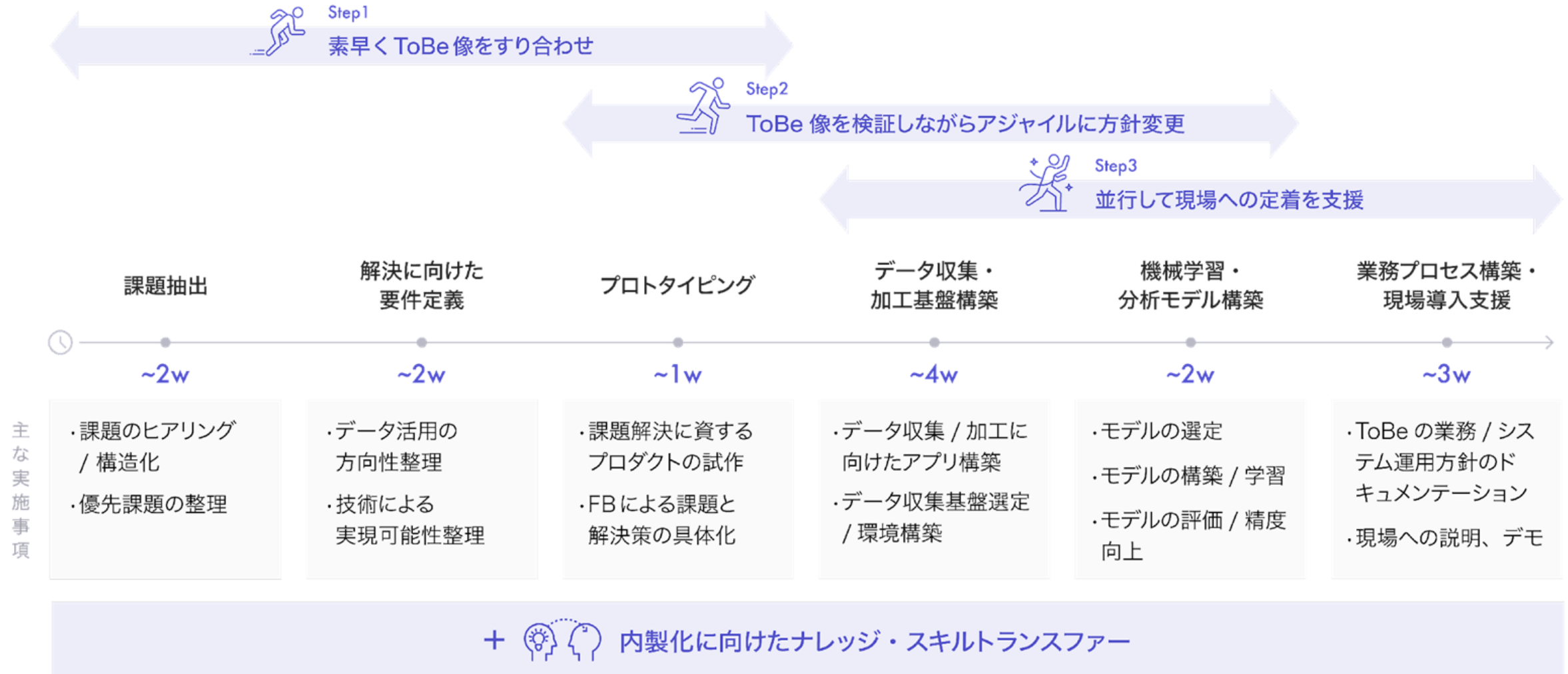
PoC 開発

本開発・実運用

経験豊富なエンジニア・データサイエンティストが
「PoC/概念実証」の開発支援をします。
貴社での継続的なメンテナンスを見据え、改善を行うポイントを明確したいえて
開発したシステム/モデルの、ソースコードやノウハウを共有します。

Modeloy ご支援内容・アプローチ

プロトタイプベースでToBe像をすり合わせながら、本環境のデータ基盤設計・モデル構築・現場導入まで支援いたします。



大手化学メーカー様

課題選定

PoC 開発

本開発

実運用

背景

中期経営計画において「デジタル基盤の整備」による必要なデータの連携を目指し、人材育成を重点課題と位置付けて階層・役割毎の教育を実施していた。教育実施後、データ活用を進めるためにデータ蓄積の仕組の構築によるデータ活用環境の整備の必要性が顕在化した。

課題

研究部門における業務整理とDB設計により、過去のデータから実験結果を予測するといったデータ活用を実現すること。

効果

- 研究部門において過去データからの実験結果予測を機械学習により実現
- 上記の前提となる研究データの蓄積の仕組みを構築
- 研究部門の研究員の機械学習モデルの構築やプロトタイプ開発といったスキル獲得

Modeloyでのご支援内容

- 数十サンプルのデータで機械学習モデルをアイデミーにてお試し構築し、「過去データから実験結果を予測する」という目的に対する成果を示しながら、並行して顧客の業界や業務知識をレクチャーをいただきながら初期的なデータ蓄積システムを構築。
- 初期的なデータ蓄積システム構築時点で、最終ユーザー(研究員)に利用いただきFBを得ることによりアジャイルにシステムの要件を変更しながら、本運用向けのデータ蓄積システムの構築を実施。
- 最終ユーザー(研究員)が開発した分析機能をシステムに反映する等、徐々に目的である過去の実験データから実験結果を予測する機能を実装し、また予測のみの機能ではなく業務プロセス全体への組み込みも想定したシステム改良を進行中。
- 開発プロセスや各種ツールに関するハンズオンやペアプログラミングの実施により、顧客における開発スキルの内製化も支援。

大手機能材料・電子材料メーカー様

課題選定

PoC 開発

本開発

実運用

背景

材料開発業務において、手動で行っている画像解析業務の自動化による工数削減等、データ活用による成果創出を目指す。
上記にあたり、データ活用人材の育成とデータ活用環境の構築を進めている。

課題

データ活用の具体例の一つとしての画像解析業務の自動化に向けたモデルの構築と、データ活用基盤構築、組織のデータ活用スキルの向上。

効果

- 手動で行っていた画像解析業務の機械学習による自動化を実現し、2時間かかっていた業務時間を20秒に削減
- Azure上にデータ分析環境を構築し、幅広いメンバーがデータ分析を行える環境を提供
- 組織内の幅広い人材のデータ分析スキル獲得を支援し、組織でのデータ活用を促進する土台を構築

Modeloyでのご支援内容

- 手動で処理している画像の元データと処理済みデータのサンプルを基に、画像解析モデルを構築し、業務での活用可能なレベルを定義しつつ精度向上を行う。
- データを活用したいメンバーがすぐに利用できるAzure上のデータ分析環境を構築。
- 画像解析モデル構築を題材に、組織内の幅広い人材に機械学習の基礎の理解や実際の画像解析モデル構築の実践スキル獲得を目指すセミナーを提供し、組織内でのデータ活用の機運+スキルを向上

大手自動車部品メーカー様

課題選定

PoC 開発

本開発

実運用

背景

進行中の機械学習を用いたフラグシッププロジェクトにおいて、製品の最終検査（外観検査）の自動化に取り組んでいる。PoC開発（PC上での機械学習モデル製作）は一通り完了。国内工場・海外工場で実際に運用するプレ運用の開始を検討中。

課題

クラウドを活用した機械学習モデルの運用システムの構築と、システム運用ノウハウの獲得。

効果

- 機械学習モデルを活用した工場ラインでの製品の目視検査の自動化による工数削減・検査精度向上
- 運用するためのノウハウの獲得・実務経験のなかったデータサイエンティストが実プロジェクトを通じ、スキル・経験のレベルアップ

Modeloyでのご支援内容

- 機械学習を用いたフラグシッププロジェクトである工場ラインでの製品の目視検査の自動化を実運用するために、最終的なシステムのあるべき姿を見据えた上でミニマムに運用できるシステム（nice to haveの要件を削ぎ落としたシステム）の構築支援を行う。
- 機械学習モデル開発フェーズにおいては、Aidemy Businessを受講したお客様のデータサイエンティストがモデル開発を行い、アイデミーデータサイエンティストがコードレビューをして、品質向上・スキル向上の支援を行う。
- PLC連携/ハードウェア選定はメーカー側で行い、他拠点展開を前提としたデータ蓄積と機械学習モデルの精度・現場オペレーションの中央監視を実現するクラウドアーキテクチャやIoT管理のシステムの設計・開発をアイデミーが実施。

